

イヤホン
新時代

ゼロオーディオがワンツーフイニッシュ!

実力は2万円クラス

高音	中音の解像度	低音	装着感	遮音性	表現力	クリアー	価格
46	45.5	47	44	42	48	48	49.5
A	A	A	B	B	A	A	A

合計
370



全項目バランスよく高得点な優等生
「これほどよく聴こえるとは!」。識者の予想をはるかに上回り、すべての項目で高得点を誇ったゼロオーディオ。思わぬ掘り出しものとなった。その後、取材スタッフがこぞって買ったのは言うまでもない。



CHECK 03
フレキシブルケーブル
電気信号がスムーズで、ピュアな音源伝送を可能にするOFC(無酸素銅線)を使用した、フレキシブルケーブル。長さも十分



CHECK 01
性能を引き出すボディ
軽量・高強度で制振性に優れたカーボン・ファイバーと削り出しアルミニウムの複合強化ボディが不要な共振振動を抑制



CHECK 04
ストレスフリーの軽さ
長時間使用しても疲れがたまりにくい軽さ。質量4.8g(コード除く)は、付けていることを忘れてしまうほど



CHECK 02
ドライバーユニット
力強いフォルムから臨場感ある音を演出。豊かな重低音と澄んだ中高域再生を実現するΦ8.5mmドライバーユニット

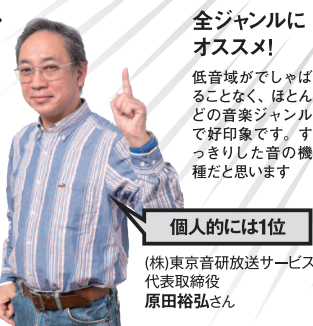
Pro Voice



高ポテンシャルな一品です
ただ「音」だけでなく「聴こえる」「感じる」良品。製品作成に対する妥協のなさを感じます

個人的には1位

サウンドプロデューサー
大澤大輔さん



全ジャンルのオススメ!
低音域がでしゃばることなく、ほとんどの音楽ジャンルで好印象です。すっきりした音の機種だと思います

個人的には1位

(株)東京音研放送サービス
代表取締役
原田裕弘さん

識者絶賛の
No.1イヤホン!

超掘り出しものの発見!

迷ったらまずコレ!

1位

総合

1位

ゼロオーディオ

ZH-DX210-CB

SPEC:ドライバーユニット:Φ8.5mm / 再生周波数帯域:6~24,000Hz / インピーダンス:16Ω / コード長:1.2m

バランス型

カナル型

カラー1色

POP
ROCK
JAZZ

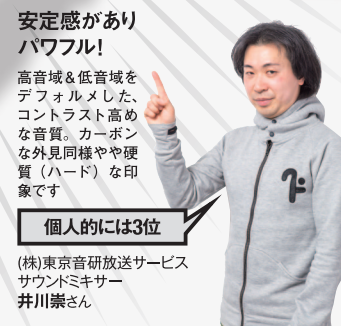


サウンドプロデューサー
大澤大輔さん

高クオリティ・高コストからメーカーの熱意が伝わってくる!

ゼロオーディオの開発部の熱意がみなぎる逸品。良い製品をつくるには開発プロジェクト・チームのマネジメント能力が問われるが、この会社の製品からはそのチーム力の高さが存分にうかがえる。すべてのモデルに共通していることだが、高域と低域を聴こえやすいように多少強調して調整している。本製品で特筆すべきはその調整センスの良さ。低音から高音まで全帯域でよく聴くことができるチューニングの良さがゼロオーディオ製品が持つバランス力の高さの秘訣だろう。そして、これほどのクオリティをもつ製品が5000円以下で購入できることに、プロが手がけるモノづくりへのこだわりを感じる……つまりベタ褒め。識者からは感嘆の声が聞かれた。何れともあれまずはこのイヤホンだ。

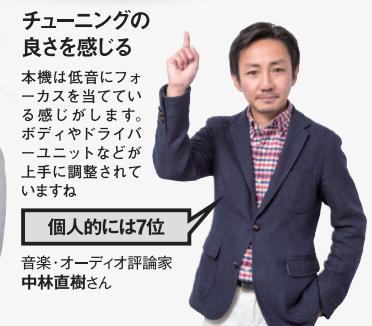
Pro Voice



安定感がありパワフル!
高音域&低音域をデフォルメした、コントラスト高めの音質。カーボン外見同様に硬質(ハード)な印象です

個人的には3位

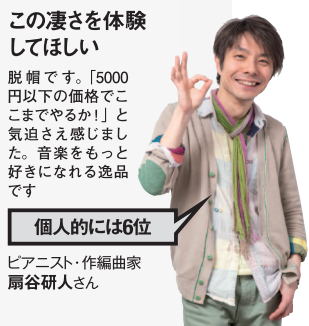
(株)東京音研放送サービス
サウンドミキサー
井川崇さん



チューニングの良さを感じる
本機は低音にフォーカスを当てている感じがします。ボディやドライバーユニットなどが上手に調整されていますね

個人的には7位

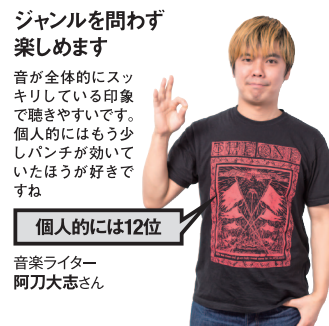
音楽・オーディオ評論家
中林直樹さん



この凄さを体験してほしい
脱帽です。「5000円以下の価格でここまでやるか!」と感嘆しました。音楽をもっと好きになれる逸品です

個人的には6位

ピアニスト・作曲家
爾谷研人さん



ジャンルを問わず楽しめます
音が全体的にスッキリしている印象で聴きやすいです。個人的にはもう少しパンチが効いていたほうが好きですね

個人的には12位

音楽ライター
阿刀大志さん



の強い圧力に余裕をもたせて聴かせる懐の深さが必要。ハウジングの中でドライバーが電気信号によって振動し音に変わる構造上、物理的にそれを完全に再現できる単一の機構は、どんなに高い価格の業務用でも存在しないんです。だからこそ、そのバランスを整えるための調整(チューニング)がとても重要になってくるのですが、このイヤホンはその部分に時間をかけてじっくり取り組んで作成している結果、完成度が高いんだと思います。

ボディは軽量・高強度で制振性に優れたカーボン・ファイバーと削り出しアルミニウムで複合強化を行い、不要な共振振動を抑制しドライバーの性能を最大限に引き出す。そのため音の立ち上がりはすば抜けて早い。ロックでのドラムやベースがぐいぐいと耳の奥に迫ってくるのを実感できるだろう。「安くて良いイヤホン」と思う人は、まずゼロオーディオを選ぶべきだ。

音のプロフェッショナルたちが本気で選んだイヤホンランキング、総合点で1位となったのはZH-DX210-CB(ゼロオーディオ)だ。テストの途中、識者の会話のなかで「ずば抜けて良いのがある」と結果が出る前から高いポテンシャルで存在感を放っていたこのイヤホン。ポイントは、バランスの良さにある。テスト項目にある点数はすべてて及第点。好みを越えた良さが万人向けといえるだろう。音の評価ポイントとなる「低音」「中音の解像度」「高音」に関して、識者から「周波数、解像度が◎」「高音が強く出る」「音の強弱がよく聴きとれる」など絶賛の嵐だった。これだけの高評価を勝ち取った「HDX210-CB」が、2万円クラスと同等のイヤホンと称されるのも納得がいく。

また、さまざまな低音の音色を聴き分けられるのも魅力のひとつといえる。テスト曲を用意したサウンドプロデューサー大澤大輔さんのコメントが興味深い。「ひと口に低音といっても、スネアドラムのインパクトの部分、キックドラムの振動の部分、ベースのレゾナンス(共鳴)の部分など、何層にも分かれていて音楽ソースごとにその密度が違うんです。だからその複雑な動きに対応できる機敏な動きと、そ